

令和 6 年 6 月 1 0 日

見附市議会議員 様

見附市議会議員 小林 園以

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【1】イングリッシュガーデンを起爆剤とした地域経済の活性化と資源の活用について

答弁を求める者 市長

今、見附市が最も注視し問題としていくことは、様々な課題解決に向かうための「財源の確保」だと私は思っております。

この 4 月に発表された中長期財政計画による見込みでは、市の貯金にあたる基金残高が令和 1 2 年度に無くなるとのことでした。

稲田市長は昨年同様、今年度の市の取り組みとして掲げる 7 つの柱の 7 番目にはやはり行財政改革を挙げ、事業の検証と見直しに取り組んでおられます。見附駅周辺整備事業をはじめ、公共施設やその運営方法の最適化などが見て取れます。

しかし、それ以上に施設の老朽化や下水管の老朽化による工事や更新、学校施設の長寿命化計画による工事の着手も待ったなしである現状から、基金残高は減っていき、枯渇することも否めません。

市の収入源として取り組みを加速させたい「ふるさと納税の寄付額増」「企業誘致」「ウェルネスタウンの販売」、国全体の課題である人口減少・少子化問題など、様々な策で挑戦して行かなければなりません。

そんな中、先月、明るいニュースが飛び込んで来ました。みつけイングリッシュガーデンの評価として、見附市、市民団体ナチュラルガーデンクラブ、みつけイングリッシュガーデンの監修・指導・市の緑化活動に協力してきたバラクライングリッシュガーデンのケイ山田氏、以上の三者が

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイ



英国の国民的園芸競技会「ブリテンインブルーム」において英国以外の国で初めて賞を受賞したというものです。

5月21日に英国にて授賞式が行われ、稲田市長とケイ山田氏が渡英し、出席して来られました。

(以下、賞の説明は市のホームページより引用)

「ブリテンインブルームとは、チャールズ国王が会長を務める英国王立園芸協会(RHS)が主催する今年60周年を迎える市民参加型の国民的園芸競技会で、園芸の美しさだけでなく、環境やコミュニティ、健康などが、いかに園芸活動と結びついているかなど総合的な評価により審査が行われています。

今回の受賞は、ゴールドコミュニティ賞と言われ、美しい花壇や緑地、環境保護、コミュニティの協力など、地域社会の美化と発展に貢献し、特に優れた成果をあげた自治体や団体に贈られるものです。

また、三者とも団体の名誉会員に認定されました。」(引用終わり)

開園から16年目、英国最大級の大会において、日本で初の世界的な受賞となり、とても名誉なことでもあります。これまでご尽力下さった全ての関係者の皆様に、ふるさと見附を愛する一市民としても感謝を申し上げるところでございます。

目立った観光資源が無いと言われてきた見附市に「みつけイングリッシュガーデン」がここまでの話題性のある観光スポットとなりました。賞の謂れのように、地域社会の発展に結びつけていくためには、まずこの事がもっと広く知れ渡る必要があるのではないのでしょうか。

授賞式後帰国された稲田市長は、5月24日の記者会見で「今回の受賞を市内外に発信し、こうした素晴らしい財産、花と緑のまちづくりを活かして市民の緑化意識をさらに高め、見附を訪れたい、見附に住みたいと思ってもらえるようにしていきたい。」とコメントされました。(※みつけ新聞5/30号より引用) また、授賞式では「大変名誉なことだ。今後も花と緑の街づくりを進め、見附の魅力を世界に発信できればうれしい。」とのことでした。(※新潟日報5/22朝刊より)

とても温かく力強いコメントで、希望の持てるものでありました。そこで、今後の展望についてお聞きします。

1. みつけイングリッシュガーデンの未来に向けた構想について

(1) 栄えある受賞後、みつけイングリッシュガーデンをどのような存在として位置付けていくのか、新たな取り組みや目指す数字、形があればお訊かせください。

(2) 市長のコメントにあった「市内での発信、市外への発信、世界への発信」とは、具体的にどのような方法や内容なのか、今現在での市長のお考えを伺います。

(3) 来訪者の内訳（市内・市外・県外・海外インバウンドなど）、また、リピーターや新規の内訳など、データもしくはおおよその動向は掴んでいるのか。掴んでいればそこから読み取れるものは何か、現状での分析を伺います。

2. このたびの受賞を、市の諸課題と関連づけることにより、地域経済の活性化や財源の確保に結びつけることができないものか、市の見解を伺います。

(1) ふるさと納税に関して伺います。

見附市がホームページで掲げている「寄付金の活用分野」は、文字だけの記事で、①市長にお任せ、②子育て・教育・福祉に関すること、③産業の振興に関すること、この3つであります。

提案型の質問となりますが、今回の受賞をお知らせしながら、文字だけではなく、庭園の写真などの彩り付きで、ナチュラルガーデンクラブの皆さんや地域の子どもたちにも出演してもらい、園で育てた苗

を学校や町内に配り花と緑の溢れる町にしたい、イングリッシュガーデンの維持管理にお力を、と笑顔で呼びかけるなど、彩りと想いを取り込んだ記載で PR してみてもいかがでしょうか。

(2) 地域の課題解決へ向かう「問題意識と体制づくり」の観点から伺います。

見附市を訪れた人や市民の誰もが、国内で唯一無二の受賞を果たしたイングリッシュガーデンのある町ということを認識できて、その点からも関係人口を増やすことは、町の知名度を上げます。大袈裟な事を言うようですが、今回の三者での受賞はそれくらい奇跡的なことであり、捉え方によっては爆発的な話題性を持っています。

是非、地域経済の活性化に結びつけていきたいところでございますが、それには、官民両者、市全体での気運も必要だと考えます。「観光」のみならず「地域の産業」という資源を活かすのは、「人」という資源であるのではないのでしょうか。

市の庁舎内では、課を越えて今回の受賞の情報共有と認識の統一はなされているのか、現在の体制についてお伺いします。

選ばれる町になることは簡単なことではありません。様々な課題解決も担当者が変わりながら何年もかけて挑戦して頂いております。

みつけイングリッシュガーデンの花々は17年余りの年月を経て、多くの方に感動を与え、見えないところでの多くの人の力で、この度の関係者の受賞となりました。

これを契機に、町おこしには「人」という資源をしっかりと活用した体制であること、私も含め1人1人の意識を高める改革の起爆剤になることを希望し、質問させていただきます。

この気運の醸成には市民の皆さんのお力も必要です。一緒に考え、時には信頼して任せ、誇れる見附市となりますよう、どうか宜しくお願い致します。